

研究費の目的とは？

よい研究をしてもらい
 成果を社会に還元

適材適所に配ら
 れているか？

問題点1

内側からみて

どのような審査がされたのか
 何が良くて何が悪かったのか
 ←←フィードバック乏しい

問題点2

外側からみて

配分結果は公正適切なのか
 過去の実績ばかりで判断？
 未来の成果の「種」に配分されたか

問題点3

出口からみて

研究と社会還元のサイクルあるか？
 成果を社会還元し、原資を増やした
 か それを研究に再投資したか

第三者的な
 「目利き」必要
 審査体制充実化
 説明責任、チェック体制etc

提案1

審査のプロの育成、活用

プログラムオフィサー(PO*)等

* 各制度の個々のプログラムや研究分野で課題の
 選定、評価、フォローアップ等の実務を行う研究経
 歴のある責任者

日本学術振興会
 学術研究システム
 センター

116名のPO
 大学等の研究者 兼任

科学技術振興機構
 科学技術振興調整費

26名のPO
 うち9人常勤

「センター研究員が行っている業務は、日本学術振興会の業務のうち、
 専門的観点に要するものに絞られており、平均して週1日~2日程度で
 履行できるものとなっています。」

これでいいの？

問題点4

内側外側からみて

若手の不安定雇用
 (ポストドクの51%が外部資金で雇用)
 プロジェクト終わればさよなら
 例タンパク3000プロジェクト
 ポストドクター230名中30名が行き先
 なし(終了直後)

米NIH

約1100名のPO
 定年まで専任
 研究者からの転職

米NSF

約400名のPO
 大学から出向(休職)
 一部はNSFに残る

研究者のキャリアパスの一つ
 研究歴ある人財の能力活用

提案2

研究費と人件費の分離

キャリアにつながる仕組みを
 プロジェクト後、職種、職場をかえて柔軟に雇用
 参考: 大学等若手研究者雇用制度
 (大学間リーグ): 京大松本総長提案

ストライカーだけでは
 試合に勝てない...

